

新しい仲間 21名が動労千葉に結集

日刊 動労千葉

82, 4, 10

No.1015

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五(六)会衆(日誌)二七二〇七

4月 82年度 新組合員歓迎会開か

四月九日十六時より、動労千葉本部会館において、八二年度新規採用者(予科三五名)のうちで新たに動労千葉組合員となった二一名(内一名は病気のため欠席)の「新組合員歓迎会」を、各支部の代表者、青年部役員をまじえて開催しました。新組合員となった仲間は、緊張した中にも将来の動労千葉を背負ったつ自覚と気概がみなぎり、短時間ではありましたが、話しはずみ、和気あいあいのうちに終了しました。



大いにはばたけ！明日の動労千葉を支える若き仲間よ。(於、動力車会館)

新組合員 歓迎会は、関執行委員の司会のもとに始められ、まず本部を代表して関川委員長から、心からの歓迎の挨拶がされました。挨拶にたつた関川委員長は、かつて自分が国鉄に入社したときの状況について話され、とりわけ「今日政府・自民党からマスコミをも総動員した『ヤミ・カラ超勤』や『悪慣行』是正なるキャンペーンをはり、国鉄労働者『国賊』論とまで言いはなっている。

このような悪質な攻撃に対し、これは今日まで労働者が一致団結して勝ちとってきた労働条件であり、決して(当局がいつているような)悪慣行というものではない。今後これを守っていくかなければならない。みなさんが晴れて動労千葉の組合員として、労働者にとってよりよい職場をつくるために、力を合わせて頑張っていきましょう」という挨拶がありました。続いて水野副委員長から、職場における組織概略と、三里塚闘争を中心とする労働運動についての取り組みを話されました。続いて本部執行部から自己紹介をし、新組合員による将来の希望も含めた自己紹介があり、それぞれ一人づつ抱負を述べた後、歓迎にうつりました。受け入れ支部からも歓迎の挨拶がされました。予定の時間もあつという間に迫り、未来の動労千葉の牽引車となるべき新組合員と、おたがいに、労働運動発展のため、団結を誓いあい、闘っていくことを確認しあい、散会した。

千葉市 春闘総決起集会開か

4月8日、本町公園で千葉市春闘共闘会議の主催による「八二春闘勝利千葉市労働者総決起集会」が七五〇名の労働者が結集し開催されました。動労千葉からも幕張、千葉転、蘇我支部から五〇名を越える組合員が参加しました。

部から激励のあいさつのおと、白井千葉地区労務局長(動労千葉)から「千葉市共闘会議は、この春闘と結合して、今各々の組合にかけられている大合理化攻撃と闘いぬかなければならぬ。又、同時に右傾化を阻止し、反戦平和の闘いの炎を消さない為にも5月23日の東京大集会を成功させよう。この為に千葉市で広範な労働者・市民との対話集会を計画し、生活・合理化・教育・地方財政・公害等々のテーマで話し合える場を作ってゆこう。」との基調報告を受けました。中央バス・千葉市職・国労通信分会等、各労組から闘う決意表明をうけました。国労の仲間からは「今、マスコ

集会は、高橋副議長(日通)の司会で議長団に岩立(全通)、小野(国労)両氏を選出し、伊藤弘議長(全農林)から「資本・当局の攻撃激化のもとでの82春闘を、13日からの闘いを決戦決着の場とし、大巾賃上げ獲得をかけた断固ストライキで闘いぬこう」とあいさつがありました。来賓の県労連議長、社会党千葉総支

ミを総動員した悪らつな国鉄攻撃は、まさに国鉄の労働組合ツブシ以外のなものでもありません。13日からの春闘決戦ストを成功させ、敵側のねらいを粉碎してゆこう」とかたい決意が表明され、会場から盛んな拍手を受けました。最後に集会宣言は、宮原次長(市職)から、「県都千葉市には組織された労働者が約八万人いる。まず組織労働者が今時春闘を果敢に闘いぬき、賃金ベースの底上げの為に先陣を切ろう。そして、千葉市内で働く二八万人の未組織労働者との連帯を拓いていこう」とのアピールが読みあげられ、全体の拍手で確認し採決しました。議長の方で宣伝カーを先頭に市内をデモ行進し、市内に働く全ての労働者に共に闘うことを訴え春闘本番の幕を切って落としました。